Vol. 22, No. 5

全科協ニュース

平成4年9月1日発行
（通巻第126号）
全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel.03-3822-0111（大代）
Fax.03-3824-3298

おもな内容：◇全科協北米科学系博物館視察研修報告4　㈱タイワ　浪江　弘元
◇加盟館園紹介　苫小牧市科学センター・広島市健康づくりセンター健康科学館
◇全科協　北から南から

〔全科協北米科学系博物館視察研修報告4〕

全科協科学系博物館視察に参加して

㈱タイワ　浪江　弘元

今回、私達の視察した場所はアメリカ合衆国の5都市とカナダの2都市である。これらのうち今回紹介するのは、カナダにある自然史系博物館2館で、ひとつは、カナダの首都オタワにある「カナダ自然博物館」で、もうひとつはトロントにある「王立オンタリオ博物館」である。

オタワには、今回視察の「カナダ自然博物館」の他に約30ものミュージアムがあり、文化的都市の様相が色濃く、町並も歴史的建物が保存されているのと同時に首都らしからぬ多くの自然が残されている。冬季ということもあり、多くの人々を町中で見ることは出来なかったが、格調高い雰囲気の感じられる町であった。

私達は、気温が氷点下28度のつきささるような風の中をバスでカナダ自然博物館に着いた。

博物館の建物は非常に古く、鉄骨造りではなく石造りのようであった。外観は昔のままであるが、内部は各コーナーでそれぞれの手法を用いて展示が展開されており、外観から受ける雰囲気とは全く違っていた。

海外のものの考え方でいつも感銘を受けるのは、古いものと新しいものの調和のとれた取り扱いである。古いものを維持することはなかなか大変なことと思うが、それが違和感なくできるのだからすばらしい。建物は技術的にはすばらしいという内容ではないが、清潔にしてあり、落ち着いた雰囲気である。

トロント市内

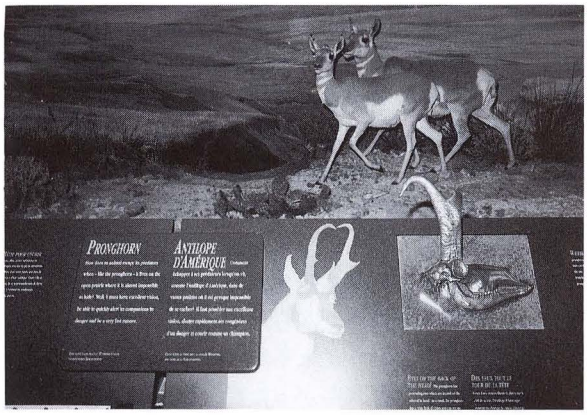
館長代理のJacques Fournier氏に案内していただき「恐竜化石コーナー」を見学した。室内は全体的に暗く、ピンスポット等を用いて展示物を照らし、内照式ボックスで解説を行っていた。全体の展示手法は驚く程のものではなかった。なぜかと言うと恐竜の周囲にある植物は実物であった。私達の感覚で言うとやはり時代考証面をすぐに考えてしまうため、実物の植生をそのまま使っていることにはやや疑問を覚えずにはいられなかった。しかし、狭い空間の中で植物の実物展示がすてきなことと、全体的に暗い中でピンスポットにより恐竜を浮き上がらせるという照明効果が恐竜の時代に入りやすくさせ、楽しく見られるというのが率直な感想である。恐竜というのは、子供達に非

恐竜化石コーナー

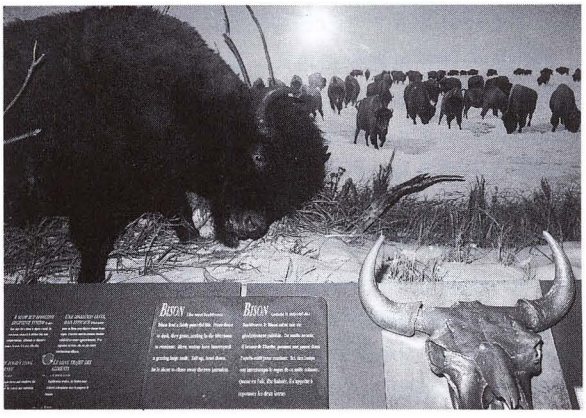
常に人気のあるもので、ここでも親子連れが興味深く見入っていた。

次に生態系展示のジオラマを見学した。ここはカナダに住む動物の環境をジオラマにより展開している。私自身詳しく調べていないので申し訳ないが、たぶんこのように動物達が自然の中で悠然としている風景に出合うことも少なくなってきていると思われる。

このジオラマ展示は、精度・展示手法も良く、大人・子供全てに見やすく展示造型されている。ガラスは照明の反射を避けるべく角度がついており、その手前には、それらの動物の詳しい説明及び頭部の骨格のレプリカ（金物のようでもあった）があり、形を手で触って実体験出来るようになっていた。手前下部には子供用の段もついていた。さらに、Q＆A方式のビデオがあり、学習の場としては内容の濃いコーナーであった。



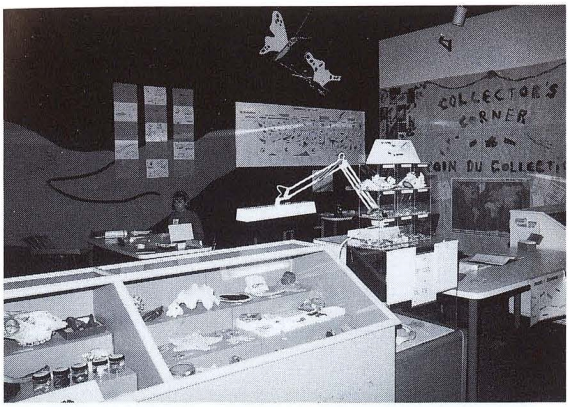
生態系展示



続いて特別展示室を見学した。身近に住む動物等を扱っていたがデザイン面の面白さが目立った。

この博物館でも子供達が勉強や質疑応答の出来るコーナーがあり、大人と子供、子供同志のコミュニケーションがとられているようである。

館側のご好意で、今現在造っているコーナーを見せていただいた。通された部屋は、非常に広く、天井の高さも4~5メートル位あった。中はさなが



コレクターズコーナー

学習コーナー

ら造型専門の工場のようであった。日本では到底考えにくく（と言うよりこのような仕方はしない）、図面あり、種々の資料あり、造作中のものあり、作製途中の大型ジオラマありと言葉は悪いが、ゴチャゴチャの状態に見えた。進め方の違いは明白であるが、やはり一番違うことは、今ここで進められている作業が企画から設計そして施工までを館の中の人間が行っていることであろう。日本においては、起案は館が提示するものの設計・施工は外注であり、その内容、施工時間等の厳守は、ごくあたりまえと考えている私にとって、館側から説明のあった「出来上がるのは、2、3年後位でしょう。」という言葉には、当然世界が違うと思わざるを得なかった。又、日本では、法的にどうかなと思うことも彼らには、まったく問題のないことのようである。

技術面について時間をかけて種々質疑したかったが、決められた時間内のため、なかなか深くは出来なかった。作業も今日は休みであったため、作製者本人から話が聞けなかったのが残念である。

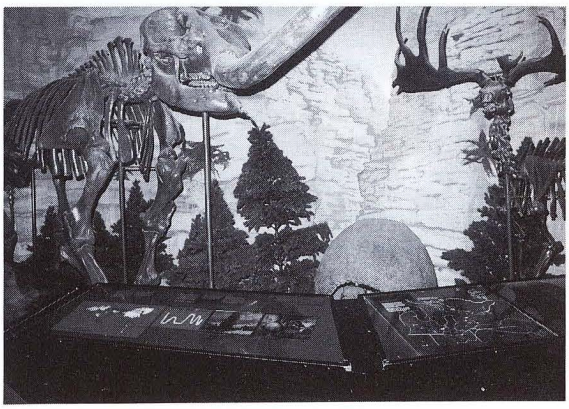
さて、次にトロントにある王立オンタリオ博物館を訪問した。ここはカナダでは最大規模の博物館で、その収蔵品は600万点を数えるという。入口に入ってまず目をひくのがドーム型天井に施されているモザイクの模様のすばらしさである。ここも建物そのものは歴史がありそうな造りである。しかしながら内部の展示はコーナーそれぞれテーマにあった展示となっている。

私達はまず、オープン直前の「エジプトのコーナー」に案内された。なぜ冬のカナダに来てエジプトを見なくてはならないのかと思ったが、展示物の貴重さや展示手法がすばらしいということで見回った。全体デザイン、展示物、照明がみごとに溶け合いエジプトという雰囲気が十分伝わってきた。ミイラ等があるため写真不可ということで資料はないが、床、壁、天井全体を使った空間はなかなか良かったと思う。

他のコーナーは写真撮影可ということで、水を得た魚のごとく各員は急ぎ各コーナーへと分散した。私は「恐竜コーナー」へ行った。ここはカナ

王立オンタリオ博物館のドーム型天井　↑

骨格のジオラマ展示　↓



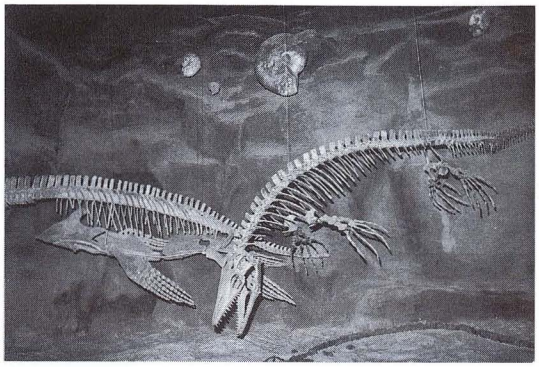
ダ自然博物館よりは展示構成が良く、レイアウトも見やすく判りやすかった。展示方法は中央が通路で両サイドにその時代区分が展示されており、ジグザクのような中央通路を進めば自然出口に導かれるようになっている。

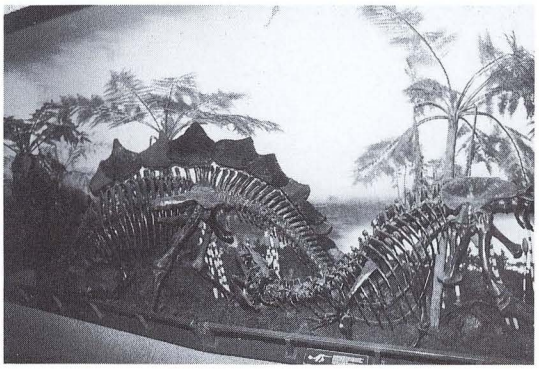
「コウモリ」のコーナーでは、洞窟の中に導かれ、音と光の演出でその実体験風効果でコウモリの住む状況が判るようにしてある。

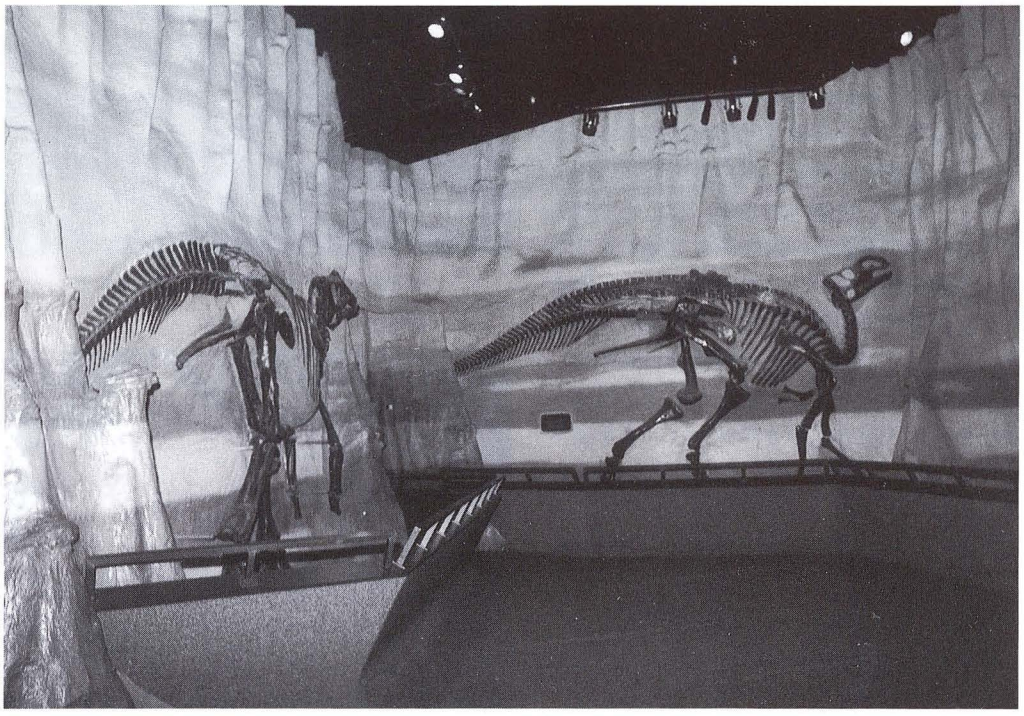
ひととおり視察を終えて集合した後、会議室に通され質疑の場を設けていただいた。個人的には、実際の設計施工の立場から色々質問したかったが、場が場のため、全体的な質疑に耳を傾けることにした。

当然と言えば当然であるが、様々な研究を行いそれらを発表する新聞等も発行しており、博物館と市民のコミュニケーションは十分とれているようであった。ただ少々残念に思えたのは、展示手法の中でやや古くなったものが多いと感じたことであった。しかしこれは限られた年間の予算の中で運営しなければならず、いたしかたない面があるのだろう。博物館とその他とのコミュニケーションがうまくとれ、又、機能していることから考えれば展示手法の古さを上手にカバーし、うまく運営されていると言えると思う。

最後に同行された方々の益々のご活躍を願っております。







恐竜コーナー

苫小牧市科学センター

〒053　苫小牧市旭町３丁目１番12号　TEL　0144（33）9158　FAX　0144（33）9159

当センターは、昭和35年６月図書館内に郷土博物室として発足、昭和45年１月「苫小牧市青少年センター」の名称で総合博物館として開館、昭和60年11月には、人文系博物館が分離独立したことにより「苫小牧市科学センター」に改称した。展示及び実験実習等を通して科学知識の普及、啓発並びに科学技術に関する正しい認識と理解を得られるよう配慮しています。

◉施設の概要

科学展示関係902㎡、実験実習関係631㎡、プラネタリウム室126㎡（ドーム直径10m、固定席90）、天体観測室13㎡、延面積2,497㎡

開館時間９：30～17:00

プラネタリウム投影時間（各40分）11：00（ただし土曜、日曜、夏休みのみ）13:00 15:00

休館日　毎週月曜（月曜日が祝日に当る場合は火曜日も休館）、国民の祝日（ただし子供の日、文化の日は開館しその翌日が休館）、年末年始（12／30～１／６）

◉科学展示活動

親子共に学び展示品に触れながら基礎的な科学技術の理解が得られるよう展示しています。また、小中学生の発明工夫展等を開き、研究発表なども行い青少年の科学に対する関心を高めています。マイコン展示コーナーでは基礎的知識が得られるように段階的にプログラムを組んでいます。

◉実験実習活動

○１日科学センター

小学校５年生・６年生を対象とし、当センターの各種設備を利用して、学校では体験できない充実した実験実習を学級単位に受け入れています。

５年生には、顕微鏡の使い方を指導し、水中のプランクトンの観察や、月令早見盤の製作とその使い方を指導しています。更にプラネタリウムにより月の満ち欠けの様子、星座を投影しています。

６年生には、身近なものとして郷土の地層（軽石、泥炭、微化石）の観察研究を指導するほか、太陽高度計を製作し、使い方を指導しています。更にプラネタリウムにより季節による太陽の動きや星座を投影しています。

○科学センタークラブ

高齢者を対象に、木工玩具の製作指導をしています。これは糸鋸盤等を使って木のぬくもりある作品が自分で作れると大変好評です。

○母親工作クラブ

小中学生の母親を対象としてステンドグラス（ウインドパネル）の製作指導をしています。

○科学教室

夏・冬休みを利用しての小中学生とその親が共に実験実習に参加するものです。

○工作教室

夏・冬休み及び毎週日曜日に小中学生とその親が協力して、作品を製作するものです。

これらの実験実習のねらいは、最近失いつつある親子のふれあい、会話を考慮に入れた情操教育の場として開設しました。

◉天文普及活動

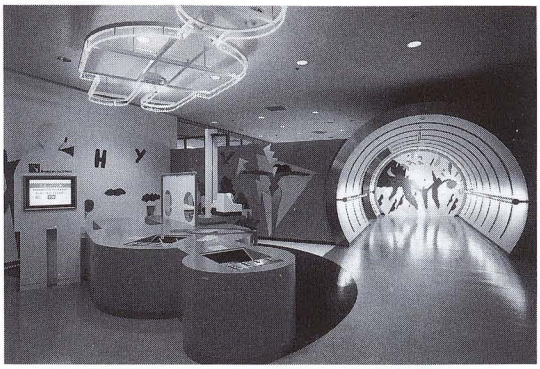
天文教室は、小中学生から一般市民を対象とし、年10回程度天文に関する学習と天体観望などを行っています。また、移動天文観測会も開催しています。

プラネタリウムは、平成２年開館20周年を記念して、コンピュータ制御システムによるオート投影に更新整備しました。一般投影のほか、幼児・小学生の学習投影もしています。なお、一般市民に星を眺めながらの音楽鑑賞会などにプラネタリウム室を開放しています。

広島市健康づくりセンター健康科学館

HIROSHIMA HEALTH SCIENCES MUSEUM

〒730　広島市中区千田町３－８－６　　TEL 082－246－9100　FAX082－246－9109



当館は、健康を科学的にとらえ、日常生活のなかで、健康づくりをどのように進めていけばよいかを、展示物を見て、触れて、遊びながら、考える施設です。また、乳幼児から高齢者に至るまで、ライフステージに応じたさまざまな健康問題について、正しい情報をわかりやすく提供しており、楽しみながら健康を科学するみんなの広場です。

施設の概要

当館は、広島市総合健康センターの５階にあり、健康をメインとした展示ホールと2000冊の図書や150本のビデオ、キャプテンなどで健康情報を提供する健康ライブラリーと透明人体モデルシステム等の視聴覚施設の整った研修会議室があり、健康教育を行っています。

延床面積　2,331.4㎡、展示面積　1,350㎡
展示品数　135点
開館時間　９：00～17：00
休 館 日　月曜日、祝日の翌日、12／28～１／４
観 覧 料　大人300円(240円)　小人150円(120円)
（　）は30人以上の団体料金

展 示 概 要

展示室は、健康についてさまざまな角度から考える、Ａ～Ｆの６つのゾーンで構成されています。

Ａゾーン.「生きているって何だろう？」生命の不思議と体の仕組みについて学ぶところです。心臓の細胞拡大模型や心臓のホログラフィ（血管像影）は生命の神秘を思わせます。さらに進むと、脳・肺の働きや感覚器官や左側に粘膜の模型と右側にグラフィックを配した通路を歩いて行くと体内にとり込んだ食物になったような感じになります。人体のすぐれた機能が解明され、生きていることのすばらしさを発見します。

Ｂゾーン.「病気って何だろう？」では病気の予防という視点から成人病、子供の健康、性の知識、歯の健康についての知識を深め、健康的な生活習慣を身につけることの大切さを学びます。

特に、「人間誕生」は出産の実写をまじえたアニメーションで性に関する正しい知識、命の大切さ、思いやり、人間愛まで理解してもらえます。

Ｃゾーン.「老いるって何だろう？」医学的に見た老化のメカニズムにさまざまな角度からスポットを当て、高齢化社会での健康問題、生きがいなど、健康で充実した老後を考えます。

Ｄゾーン.「健康って何だろう？」健康の星を求めて宇宙に旅する、迫力のある立体マルチスライドのシアターは健康とは何かを問い直し、どうすれば健康が保てるかを考えます。

Ｅゾーン.「原爆放射線と健康」原子爆弾とはどんな爆弾か、放射線とは何か、人体にどのような影響を与えたのかなどを説明しています。

Ｆゾーン. 遊びながら、健康科学への関心をより高めるプレイゾーンです。モグラたたきによる目と耳の反応テストや身長、体重、血圧測定による健康チェックや人体ジクソーパズルで内臓の大きさや形、位置などを確認します。

健康教育普及活動

常設展示に加えて、期間を設定し特別展・企画展を年間12回程度開催しています。

夏休みや春休みを利用して「おかしと健康展」とか「歯の健康展」などの特別展を行い親子で楽しめるよう工夫して、観覧者の増加を図っています。

研修会や講演会は年間30回開催しています。夏休みには小児肥満を解消するための親子サマー教室を開催し大変好評でした。

また、健康づくりの専門家研修や一般市民を対象とした講座を年間７回程度開催しています。

平成４年４月から本格的に小学校の高学年を対象として当館を利用した「健康学習の手引き」を編集して、理科教育や性教育等の学校教育に役立たせています。

全科協　北から南から

◇全科協の理事会、総会

平成4年度全国科学博物館協議会の理事会及び総会が7月22日㈬国立科学博物館講堂で開催された。出席館は54館、委任状提出館は70館であった。

1．理事長のあいさつがあった。

2．全科協加盟館園の状況（後記）

3．議事内容は次のとおりである。

⑴理事館、監事館の改選及び理事長選出

理事館、監事館は現役員館が再任。理事長は国立科学博物館長が再任。

⑵平成3年度事業報告及び収支決算報告

㈠平成3年度事業報告の主な内容

研究会の実施、機関紙の発行、科学系博物館に関する調査、研究及び情報交換、海外の科学系博物館視察研修の実施、会員館相互の協力事業の実施、科学系博物館に関する普及広報

㈡平成3年度収支決算の概要

（収　入）		（支　出）	
繰越金	1,902,324円	事業費	1,026,442円
会員会費	1,635,000円	事務費	770,543円
雑収入	504,737円	予備費	0円
寄付金	100,000円	繰越金	2,345,076円
計	4,142,061円	計	4,142,061円

⑶平成4年度事業計画の主な内容

㈠研究会の実施

第22回全科協博物館事業研究会を、「博物館と学校教育との連携、学校5日制への対応」を研究テーマとして、平成4年11月に実施する。

㈡機関紙の発行

「全科協ニュース」を年6回発行する。

㈢科学系博物館に関する調査、研究及び情報交換

平成3年度に作成した全科協加盟館及び国内の科学系博物館等のリストをもとに、調査を実施し、「全科協データブック」（仮称）を作成する。

㈣会員館園相互の協力事業の実施

会員館園が実施する特別展、企画展、移動展、標本資料の貸借等に関して、相互に協力して実施する。

㈤海外の科学系博物館視察研修の実施

会員館園の職員から希望を募り、アメリカ合衆国の科学系博物館における展示技術、教育普及活動等の視察研修旅行を実施する。

㈥科学系博物館に関する普及広報

全国科学博物館協議会に未加入の科学系博物館に対して、入会の勧誘を行う。

㈦平成4年度収支予算

（収　入）		（支　出）	
繰越金	2,345,076円	事業費	3,717,800円
会員会費	1,642,000円	事務費	854,012円
雑収入	1,231,600円		
寄付金	100,000円	予備費	746,864円
計	5,318,676円	計	5,318,676円

平成3年度入会の正会員館

○福井県自然保護センター
○日立市科学館
○苫小牧市科学センター
○三重県立みえこどもの城
○秋田県立農業科学館

平成4年4月～6月入会の正会員館

○東武博物館
○トヨタ博物館
○鹿児島市立科学館
○四賀村化石館
○狭山市立博物館
○北とぴあ科学館
○スペースワールド宇宙博物館
○多摩北部広域子供科学博物館組合

◇全科協米国科学系博物館視察研修

全科協では、今年度アメリカ合衆国の科学系博物館視察研修を計画しています。

博物館の職員として、一度は見学しておきたい代表的な博物館を見学します。この機会に、全科協加盟館園からできるだけ多くの方々が参加され、アメリカの博物館の展示や教育普及活動の現状を見学して、各館園の今後の発展に役立たせていただきたいと考えます。

期間　平成5年1月14日㈭～1月27日㈬14日間

日程の概要

1月14日㈭　11時00分　成田空港発
　　9時30分　ワシントン着

市内視察　（ワシントン泊）
1月15日(金)　国立航空宇宙博物館視察
（ワシントン泊）
1月16日(土)　国立自然史博物館視察
（ワシントン泊）
1月17日(日)　ワシントン発
ニューヨーク着　市内視察
（ニューヨーク泊）
1月18日(月)　アメリカ自然史博物館視察
（ニューヨーク泊）
1月19日(火)　ニューヨーク発
バーナル着　市内視察
（バーナル泊）
1月20日(水)　恐竜国立モニュメント視察
（バーナル泊）
1月21日(木)　バーナル発　ロサンゼルス着
ロサンゼルス郡自然史博物館視察
（ロサンゼルス泊）
1月22日(金)　カリフォルニア科学産業博物館等視察　（ロサンゼルス泊）
1月23日(土)　ロサンゼルス発　サンノゼ着
リサイクル博物館、サンノゼこどもの発見博物館視察
（サンフランシスコ泊）
1月24日(日)　エクスプロラトリウム視察
（サンフランシスコ泊）
1月25日(月)　カリフォルニア科学アカデミー等視察　（サンフランシスコ泊）
1月26日(火)　サンフランシスコ発
ロサンゼルス経由　（機中泊）
1月27日(水)　成田空港着　解散

参加費用　480,000円（15名以上）
申し込み　締切り　平成4年11月10日(火)
申込金　50,000円(残額は12/21までに)
方　法　所定の申込書による
問合わせ　全科協事務局　担当：花田、若宮
電　話：03（3822）－0111，0114
菱和ダイヤモンド航空サービス㈱
担当：山口
電　話：03（3278）－1459

申込書・募集要項は、すでに加盟館園に送付してあります。

なお、申込書・募集要項が必要な場合は、事務局にお知らせください、お送りします。

◇特別展・企画展

○気象―空となかよく―　富山市科学文化センター
会期：7月18日(土)～10月4日(日)
○日中国交正常化20周年記念展　楼蘭王国と悠久の美女　国立科学博物館
会期：9月8日(火)～11月29日(日)
○ブナ林の自然誌　千葉県立中央博物館
会期：9月26日(土)～11月29日(日)
○日中国交正常化20周年記念　中国切手展　逓信総合博物館
会期：9月29日(火)～10月4日(日)

◇加盟館園の出版物

特別展図録・解説書
○日本のチョウ　―地域の違いを追う―　豊橋市自然史博物館
○おもしろ・びっくり・化学の世界　ザ化学展92　名古屋市科学館
○海辺の生物と貝　府中市郷土の森博物館
○恐竜　―謎とロマン―　岐阜県博物館
○恐竜のあるいた道　福島県立博物館
○気象　―空となかよく―　展示解説　富山市科学文化センター

年報・研究報告・紀要
○鳥羽水族館年報　No. 3　1991
○Museum ちば　第23号　1992　千葉県博物館協会
○国立科学博物館年報　平成4年度　1992
○仙台市科学館年報　第24号　1992
○仙台市科学館研究報告　第2号　1992

◇文部省宇宙科学研究所では、「宇宙へ飛び出せ」ビデオシリーズの第1巻として「宇宙をさぐる―ロケット・人工衛星―」を制作した。このビデオは、世界や日本のロケットの歴史を織り込みながら、宇宙科学研究所のミューロケットを中心として、ロケットの原理・構造や飛び方などを分かりやすく解説している。また、最新の科学衛星による成果を紹介するとともに、ロケット・人工衛星を使って、今日宇宙科学者たちがどのように宇宙の謎に挑戦しているか紹介している。カラー25分、定価3,300円（税込）
申込先：財団法人宇宙科学振興会
〒229 神奈川県相模原市由野台3－1－1
Tel：0427-51-1126